

玉垂



鳥居前の枝垂れ桜 (平成27年4月1日)

<http://www.okunijinja.or.jp>

春の訪れによせて

立春が過ぎ、冬も終わりを告げるころ時折吹く厳しい風もありませんが、陽射しは柔らかくなり、春の気配も駆け足で迫ってきます。芽吹いた生命が力強く成長していく様は、毎年のことながら心が沸き立つ思いです。氏子崇敬者の皆様方には、ご壮健にてお過ごしのことと拝察申し上げます。

さて、本年三月初旬は真冬のような寒さの日もございましたが、それを過ぎますと春本番の暖かさの到来となりました。春の訪れを告げる当社の桜も平年並みか少し早い段階で開花を迎えそうです。昨年、見事に咲き揃いました門前の江戸彼岸群の枝垂れ桜も順調に成長しており、去年よりも立派な枝ぶりに開花を今か今かと心待ちにしております。

華やかな春の訪れを彩る桜は、多くの人々に愛されてきました。古代において桜は山桜が主であり、農閑期に田の神が里から山へと帰り、農耕を開始する時期に田の神が山桜に宿ることで開花すると考えられてきました。また、山野に咲く桜花を遠くから眺めて稲の稔りの吉凶を占ったとも言われています。そして、農事暦を伝える神聖な桜の木に、古人は供え物をして田の神をお迎えし一年の豊穡を祈りました。

また、私たちが桜に抱く心象風景は、桜そのものが持つ美しさへの感嘆もさることながら「咲く」ことに強い思いを寄せ、また反対に「散る」ことを惜しむような内なる心模様ではないでしょうか。このような心の有り様は、八世紀後半に成立したとされる現存する日本最古の和歌集「万葉集」に記された山桜を詠んだ詩歌からも伺えます。このような大和心はずでにこの時代から確立され、自然の営みと共に育まれた「祖先のころ」は、現代に生きる「私たちのころ」に深く繋がっていることがわかります。

五感の一つ一つで季節を感じ、その中でごく自然に祖先と繋がりが土地と繋がりが、神々と繋がる。この「繋がり」を意識しながら生活を営むことは、心の安寧や平穏に繋がることと存じます。

花々が咲き始めますと、御例祭も近づいてまいります。各位のご健勝をお祈り申し上げますと共に、お揃いのご参拝をお待ち致しております。

年末年始のご報告



平成28年「申」制作 鈴木格子様



平成28年正月参拝者で賑わう境内 (1月1日)



追儺祭 追儺神事 (1月3日)



御弓始祭の奉射神事 (1月17日)



田遊祭 賑わいの餅撒き (1月3日)



スーパーカー愛好会による新春の交通安全祈願 (1月3日)



手鉾始祭 棟梁 大場喜久司様 (1月11日)

節分祭の齋行

去る二月三日、百名の年男役・年女役のご奉仕をいただき、節分祭を齋行いたしました。

当日、色鮮やかな大紋に烏帽子姿の奉仕者の皆様は、追儺神事で邪気や厄災を祓い、一同で大きな笑い声を上げる福笑い神事を行い、福を呼び込みました。

また本年は、特別奉仕者として浜松市ご出身で俳優の寛利夫様、衆議院議員の宮沢博行様のご奉仕を賜りました。豆撒き神事では福を求める方や寛利様の姿を見ようと訪れた大勢の参拝者で賑わいました。太鼓の音と共に福豆や



節分祭特別奉仕者
俳優 寛 利夫様(右) 衆議院議員 宮沢博行様(左)



俳優 寛 利夫様
奉納のサイン入り福袋

菓子が撒かれると、大きな歓声が上がります。それぞれに福を受けられていました。寛様、宮沢様をはじめ節分祭にご奉仕された皆さまの益々のご健勝とお栄えを心よりお祈り申し上げます。

師走の大祓式齋行

十二月三十一日大晦日、午後三時より師走の大祓式を齋行いたしました。大祓式とは、知らず知らずのうちに犯してしまつた罪や穢れを身代わりとなる人形に託して祓い清める伝統神事です。

特に師走の大祓式は、清浄な心と身体で新しい年を迎えるための重要なお祓いとされています。

本年は、氏子内外より約六〇〇名の方々が参列し、お祓いを受けられ清々しい姿に立ち返りました。引続き齋行いたしました除夜祭では、大神様に一年の無事を感謝し、新年が佳き一年であるようにお祈りいたしました。



師走の大祓式 (平成27年12月31日)

田遊祭・田遊神事

一月三日(日)午後一時より拝殿にて田遊祭を齋行し引続き舞殿にて田遊神事を執り行いました。

当社の田遊神事は「田作り」から「刈入れ」までの稲作過程を模擬的に演じる神事芸能です。これらの所作や唱え言により田に靈威を込め、田の穢れを祓い、豊作を祈ります。

また、素朴な所作と唱え言は古式を今に伝える貴重な神事として、国選択「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に登録されています。

古から変わることなく続く神々への真摯な「祈り」の姿にご参拝の皆さまも高い関心を寄せていました。



田遊神事 九番 「苗讚め」(1月3日)



日本の神話に親しむ会の皆さまによる
大型絵巻物「神武天皇」の読聞かせ (2月11日)

神武天皇が日本の国を建国されてより今年で二六七六年の佳節を迎えまして。
二月十一日(木)当社では、この建国の偉業を仰ぎ国家の発展をお祝いする紀元祭を執り行い、四〇〇名余りの参加者とともに奉祝の式典を開催いたしました。
また、本年は日本の神話に親しむ会の皆さまのご奉仕により物語絵巻「神武天皇」の読聞かせも行われ、躍動感溢れる神々の姿に、子どもたちも熱心に聞き入っている様子でした。
我が国は、建国の起源を神話に求めることができる国家です。日本の国柄を知り、その精神を後世に伝えていかなければなりません。

紀元祭の齋行



祈年祭の参進 (2月18日)

境内の梅が咲き揃い春の訪れを感じる二月十八日に祈年祭を齋行いたしました。
我が国は、稲作を中心とする農業をもとに栄えてきました。年の始めに穀物の豊穰をお祈りする祈年祭は、日本を象徴する大切なお祭りの一つです。諸産業が様々に発展している現在においては、あらゆる産業の発展もお祈りしています。
また、本年は松尾貞子様よりレタス、キャベツ、大根など多数の農産品をご奉納いただき、ご神前にお供えしての齋行となりました。松尾様のご厚志に深く感謝申し上げます。

祈年祭の齋行



大神様のご加護を受けられたご参列の皆さま(2月12日)

二月十二日(金)寒明けの最初の甲子うらみねの日に初甲子を齋行いたしました。甲子の日は、ご祭神大己貴命が国土経営を始められた縁日です。
なかでも、初甲子の日は特にご靈験あらたかな日とされ「願い事のままに叶う」と古来より伝えられています。
また、初甲子祭では特別にご本殿の廻りを歩いてお参りができます。氏子崇敬者の皆様は、大神様の間近にて日常の感謝の気持ちを捧げ、それぞれが心静かに祈りをされています。
お参りの後、一様に穏やかな表情をされた皆様は、早くもご神徳を頂かれたことと拝察いたします。

初甲子祭の齋行



講師 林英臣政経塾 塾長 林英臣様
(平成27年12月6日)

昨年十二月六日(日)第六期第二回の遠州とこわか塾を開催いたしました。講師には林英臣政経塾塾長林英臣先生をお招きし、「和の心と日本的経営」その基本精神七箇条」と題しご講演を賜りました。
日本の経営の心とは、理念・信用・互恵・年輪・公益・上下一体・感謝の七つを基本精神とし、これらを着実に実践することで経済を成長させてきました。
様々な社会情勢の変化への対応は不可欠ですが、一過性の流行ばかりに目を奪われず、大局を見極め、細事・小局に対応しなければなりません。企業に限らず、それぞれの立場において社会への貢献を念頭に成長していくことが重要です。

遠州とこわか塾開催のご報告

特別寄稿

参議院議員・前国務大臣

山谷えり子 傷痍軍人の娘として



わが国は、平和と自由を希求し、今日まで歩みをすすめてまいりました。

同時に世界有数の経済大国として、たゆまぬ努力のもと、焦土の中から着実な復興・発展を成し遂げてまいりました。

これらの平和と繁栄は、先の大戦において、国のために戦い尊い命を捧げられた戦没者の皆様の上に築かれたものであり、あらためて御英霊の皆様への感謝の誠を捧げ、深く思いをいたすところでございます。

私は、終戦から五年後の占領下にあった時代に東京で生まれました。世の中はまだ貧しく、栄養不良の人も多く、衣類や脱脂粉乳などのララ物資（アメリカから日本への援助物資）を、アジア救援公

認団体からいただいていた時代でした。

当時、私の父・山谷親平は、国会担当の政治部記者をしていました。その後、ラジオやテレビでパーソナリティとして働きましたが、戦時中は志願兵として飛行第六四戦隊、いわゆる加藤隼戦闘隊のパイロットとしてジャカルタと海南島、ビルマで戦い、三度撃墜されながらも生還、体中に機銃掃射を受けた弾の破片を残し、関節のあちこちが曲がらぬ傷痍軍人の誓いながら生きぬきました。

ラジオの電波では「継続は力」、「絶望は愚か者の結論なり」、「ヤマもタニもあるがシンペイすんな」と菌切れよく語っていた父でしたが、家では「開戦した以上は、日本の山河、家族、隣人、子供たちを守るために戦った。今はおつりの人生。国と平和を守り、よい社会にしなければ亡き戦友たちに申し訳ない」と静かな口ぶり

で語っていました。

毎日のように戦友を失っていく南方での日々、将棋をさしていた相手が出撃した一時間後にはもういない。昨日、隣に寝ていた戦友がもう永遠に帰ってこない。父はやりきれない悲しみを語り、だからこそ生ある間は、自分を差し出し、自分の役どころを果たし続けなければいけないと、仕事に、社会奉仕に、家族や友人を幸せにすることに真剣でした。心をつくし、日々懸命に過ごし、子や孫のために「平和と繁栄」を築き、まさに生きることを貫いた世代であったと感じます。

◆日本独自の民主主義

敗戦直後の昭和二十一年一月一日、昭和天皇が初めて国民にむけて詔書を発布されました。「我が国は、今国難の中にあり」で始まる冒頭のお言葉の後には、明治天皇が出された五箇条の御誓文を全文引用されています。

それから、三十一年経った昭和五十二年八月二十三日の記者会見において、陛下は御誓文を引用されたことについて記者から問われると、「当時はアメリカその他諸外国の勢力が強く、日本が圧倒される心配があったので、民主主義

を採用されたのは明治天皇であって、日本の民主主義は決して輸入のものではないということを示す必要があった。日本の国民が日本の誇りを忘れないように発表することを希望した」と述べられました。

日本が主権を回復するまで八年間に及ぶ占領下時代こそありましたが、日本の美しい国柄は、悠久の歴史と共に今日に至っていると感謝しています。

◆これからの日本

安倍総理が東日本大震災後に訪問したインドネシアの学生たちが「桜よ、大好きな日本へ」という日本語の歌を合唱して、我々日本人を励ましてくださいました。

桜よ、咲き誇れ 日本你真ん中で咲き誇れ、日本よ咲き誇れ 世界我真ん中で咲き誇れ、私よ咲き誇れ この道我真ん中で咲き誇れ、日本そして日本国民の歩みは、世界から信頼されていると思えます。

平和と繁栄を享受しているわが国は、未だ病や戦禍、貧困など厳しい状況下にある世界の人々に貢献できる立場にもありません。これまで先人たちが生まれ、培ってきた陸みらぎの精神の道をまっすぐに歩んでまいりたいと思います。

神宮撤下御神宝の下附

この度、伊勢の神宮の御神宝を賜る「神宮撤下御神宝下附」の栄に浴しました。第六十二回式年遷宮完遂に伴う下附です。

平成二十七年十二月二十四日に神宮司庁において下附式が執り行われ、宮司が目録を謹んで拝受いたしました。翌二十五日には、ご神前において神宮御神宝下賜奉告祭を執り行いました。

神宮では、一三〇〇年の永きに亘り二〇年毎に古式に倣い、宮地、建物、御装束神宝などをすべて新調し、大神様にお遷りいただく、世界でも類を見ない営みを続けてきました。

御装束神宝に用いられる様々な技法・技術は現在日本が持っている伝統工芸技術の一大集積群であり、高度な



皇大神宮の御神宝 梓御弓 壺張

美術工芸が御神宝の調整に集約されています。

当社に下附された御神宝は次の四点となります。

- 皇大神宮御神宝 梓御弓 壺張
- 皇大神宮別宮 銅黒造 御太刀 壺柄
- 皇大神宮別宮 御楯 壺枚
- 瀧原宮御神宝
- 豊受大神宮別宮 御胡篋 壺合
- 月夜見宮御神宝

天照坐皇大御神様に奉り、日本の美を継ぐ御神宝を下賜されましたことは誠に光栄なことであり、慶賀に堪えません。

今後は鄭重にお護りし、後世に継承してまいります。



皇大神宮別宮荒祭宮の御神宝 銅黒造御太刀 壺柄

静岡県神道青年会神道行法「大寒禊」の実施

一月二十一日午前七時より、静岡県神道青年会主催による恒例の「大寒禊」が天竜川で行われ、県内の青年神職や一般参加者三十四名が禊を行いました。当社からは根本権禰宜、狩野権祢宜が参加し、神明奉仕をするための清浄な心身に立ち返りました。

禊は、まず川べりで「鳥船行事」を行い、精神統一いたします。次に川の中に進み、「大祓詞」を奏上して罪穢れを祓い清めます。

当日は身も凍るような寒風に、水温は二度という環境でしたが、晴天にも恵まれ、参加者一同清々しい心になりました。



神道行法 「大寒禊」 (1月21日)

小國神社氏子青年会活動のご報告

小國神社氏子青年会では、年末年始にかけて様々な奉仕活動をいたしました。新たな年を迎えるに当たり、拝殿前の大注連縄の奉製作業から始まり、年明けからは福德円満、開運厄除だるまの授与奉仕を行いました。

また、一月十七日には正月飾りや古くなったお神札を焼き上げるとんど焼きにて、家内安全・無病息災の祈りを込めて奉製した「おはたき餅」の授与を行いました。

本年も会員一同、大神様のご神徳を広くお伝えできるようご奉仕してまいります。



とんど焼祭 おはたき餅の奉製 (1月17日)

まつり歳時記

三月〜六月

三月 弥生

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十七日 真田城趾慰霊祭 (午前十時半)
- 十七日 鉦執社例祭 (午後一時半)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十日 春季皇霊祭遙拝式 (午前九時)
- 二十二日 一官祖霊社春季祭 (午前十時半)

四月 卯月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 二日 勸学祭 (午前十一時)
- 三日 神武天皇祭遙拝式 (午前九時)
- 三日 一宮さくら祭 (午前十時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 八日 杉祭 (午前九時)
- 八日 全国一宮等合殿社例祭 (午前九時半)
- 十四日 垢離祭 (午前十一時)
- 十四日 舞揃 (午後二時)
- 十六日 献詠祭 (午前九時)
- 十六日 氏子入り奉告祭 (午前十時)
- 十六日 十二段舞楽奉奏 (午後二時)
- 十七日 前日祭 (午前十時)
- 十七日 十二段舞楽奉奏 (午前十一時)
- 十七日 神幸祭 (午後二時)
- 十七日 献茶祭手揉み保存会 (午後四時)
- 十八日 例祭 (午前十時)
- 十八日 昭和祭 (午前九時)

五月 皐月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 五日 こども祭 (午前十時)
- 六日 本宮山青葉祭 (午前十一時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)

六月 水無月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 一日 花菖蒲園開園奉告祭 (午前九時)
- 五日 花しょうぶまつり (午前十時半)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十一日 甲子祭 (午前九時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十一日 御田植祭 (午前九時)
- 三十日 夏越の大祓式 (午後三時)



初夏の一宮花菖蒲園(平成27年5月30日)

第二回「人と暮らしたかみのたな展」の開催

一月十四日より二十四日までの十日間、静岡市内ギャラリー濱村にて、(有)静岡木工が第二回「人と暮らしたかみのたな展」を開催いたしました。

日常の「感謝」の気持ちを届ける祈りの場「かみだな」を設けることの大切さと「神さまを身近に感じて一日を始める丁寧な暮らし方」を広く伝える展示会となりました。

また、当社のご神域で育まれた神杉かみ杉で奉製した「御神札まつり箱」神杉の「木霊」も展示され、多くの人々が関心を示していました。

本年五月には当社研修室で第三回の開催も予定されております。詳細は当社公式ウェブサイト内にてご案内いたしますので、是非ご来場下さい。



様々な住環境に溶け込む「かみだな」の展示(1月23日)

第五回神社検定のご案内

本年六月二十六日(日)に第五回神社検定が全国一斉に開催されます。当社の研修室も受検会場となります。

検定問題は、公式テキストから出題されます。三級が「神社の基礎と神話」・二級が「神社の歴史と万葉集」・一級が「テキスト全般から」となります。申込等詳しい内容は、神社検定公式ウェブで確認ができます。

神社検定で正しい知識を身につけて、神社におまいりをすれば、今まで身近すぎてわからなかった日本文化がきっと見えてきます。

五月十八日(水)が締め切りとなりますので、お気軽にお申し込み下さい。



神社検定合格を目指す(有)静岡木工のスタッフ(2月25日)

平成二十八年例祭期間のご案内

四月十八日(月)に、当社で最も大きな祭典「例祭」を斎行いたします。この日は本宮山にご祭神「大己貴命」が祀りされ、十二段舞樂が奉奏されたご縁日にあたります。

本年の例祭期間の日程は、十六日(土)午前中に氏子入り奉告祭を執り行い引続き十二段舞樂奉奏、十七日(日)神幸祭齋行に引続き十二段舞樂奉奏、十八日(月)に例祭を斎行いたします。十七日(日)の神幸祭では神輿渡御や勅使行列を行い、舞殿にて十二段舞樂が奉奏されます。

また、境内では弓道愛好家による大弓会、新茶の手もみの実演や茶娘による無料接待、甘酒の無料授与などが催され、大変賑やかな一日となります。

当社に最も由縁の深い吉日にご参拝いただき、多くの方が大神様のご加護を賜りますよう、ご案内申し上げます。



神幸祭“春のまつり” 撮影 金子育史氏
(本年は4月17日の斎行)

勸学祭・氏子入り奉告祭のご案内

勸学祭は、四月二日(土)の午前十一時より斎行いたします。氏子地域内の小学校と中学校へ入学されるお子様をご案内し、学業成就・身体健全・交通安全をお祈りいたします。

氏子入り奉告祭は、四月十六日(土)午後二時より斎行いたします。

平成二十七年四月一日から平成二十八年三月三十一日までに出生まれにいられたお子様と嫁入り・婿入りされた方、転入移住された方々をご案内し、当社の氏子に加わったことをご神前にご奉告申し上げて家内安全・無病息災をお祈りいたします。

お申し込みは、各地区の総代を通じてご連絡いたしますので、ご家族皆様でご参列下さい。



勸学祭 中学生による玉串拝礼
(平成27年4月4日)

一宮さくら祭の開催

四月三日(日)午前十時より、一宮さくらまつりを開催いたします。

門前小國ことまち横丁前の駐車場を会場にして特設ステージを設け、バンド演奏を始め、華やかなダンスや居合の演武など全十二組のパフォーマンスが午後四時頃まで休み無く行われます。

また、境内では甘酒の無料接待や、舞殿では琴・尺八の奉納演奏が行われ、優雅な音色が響き渡ります。会場では露店の出店も行われ終日多くの人々で賑わいます。

皆さまお誘い合わせの上、お越し下さいますようお願い申し上げます。



華やかなダンスパフォーマンスの数々

第十四回「写真コンテスト」のご案内

当社主催の第十四回写真コンテストの作品の募集をいたしております。新鮮な視点でご神域に溢れる小國大神様の恵みを表現して下さい。

テーマは、部門①「草花・自然」、部門②「祭事・催物」、部門③「野鳥」となります。撮影期間は、平成二十七年十一月より応募締切の平成二十八年六月末日までとなります。

応募用紙は、当社公式ウェブサイトからも印刷が可能です。また、社頭及び静岡県写真材料商組合に加盟しているカメラ店でも配布しております。皆様方の多くのご応募をお待ちしております。



第13回優秀作品「美しき森の住民」(キビタキ)
(撮影 杉本昌弘氏)

斎庭の草花⑥

ハナイカダ

当社は四季折々に自然を楽しんでいただける豊かな杜に生まれ、また普段何気なく見ている境内には多くの草花が生きづいています。

シリーズでご紹介するご神域に生づく草花の写真の数々は崇敬者の山崎克巳様の奉納写真をもとに掲載をいたします。

ハナイカダ(花筏)

ミズキ科 ハナイカダ属

花期 四月〜五月 草丈 1m〜2m

生育地 森林

分布 日本全土

名前の由来は、葉の中心に花や果実をつける様子が花が筏に乗っているように見えることからハナイカダと呼ばれるようになりました。



花筏

古代の森シリーズ④6

豊栄舞

豊栄舞は日々のお祭りをはじめ、ご祈禱、神前結婚式などにおいて巫女がご奉仕しています。乙女の舞ともいわれ、舞人は袖や季節の花々を持ちながら舞います。

古典雅楽の「越天楽」と「風車」で構成された楽曲に国文学者の白田甚五郎が歌詞を付けて、昭和二十五年に祭祀舞として完成し今日に至ります。

舞人の美しい祈りの舞姿はもろること、美しい日本語で綴られた神々への感謝の真心を表現した歌詞は、優雅な楽曲を介して一層美しく響きます。豊栄舞をご覧になる際は、美しい歌詞にも耳を傾けてみてください。



初甲子祭にて奉奏する「豊栄舞」(2月11日)

命名

平成二十七年十二月一日

平成二十八年二月二十九日

宇賀神悠社	浜松市	山本 侑人	森 町
早苗 澄人	滋賀県	村松 杏菜	袋井市
太田 東吾	袋井市	井口 砥和	袋井市
外山 蒼梧	浜松市	朝比奈杏奈	袋井市
河津 錬人	熊川市	鈴木 太賀	東京都
田中康太郎	熊谷市	竹内 春乃	森 町
佐々木康平	静岡市	福本 千紗	袋井市
今澤詠太郎	森 町	加藤 平晋	袋井市
山本 英人	横浜市	横浜市	

稚児行列奉仕者の募集

四月十七日(日)午後二時より神幸祭(おわたり)を齎行し、稚児行列を執り行います。つきましては、本年も晴やかにご奉仕下さるお稚児さんを募集しておりますので、ご希望の方は当社までご連絡ください。

電話 〇五三八一八九一七三〇二

「小國神社振興会 稚児行列係」

募集要項

- 一、対象者 小学校三年生位までの男女
- 一、参加費 五、〇〇〇円
- 一、募集人員 若干名(先着順)
- 一、申込締切 三月二十六日(土)



稚児行列奉仕の子どもたち(平成27年4月19日)

献詠祭の和歌募集

当社では、献詠祭で神前に奉納する和歌を募集しています。左記の要項にて多数ご応募くださいますようお願い申し上げます。

- ◆兼題 「家族(家)」・「山」
- ◆用紙 短冊
- ◆歌は楷書にてお書き下さい。
- ◆裏面に住所氏名を明記下さい。
- ◆献詠費 無料
- ◆締切 四月十三日(水)
- ◆宛先 千四三七一〇三六

静岡県周智郡森町二宮三九五六一
小國神社社務所 祭儀課 献詠係



本宮山より遥かに遠州灘を望む景色は絶景です

「小國の杜」点描



福を呼び込む宝槌打振り神事(2月3日) 寛 利夫様(右)



節分祭にご奉仕の年男役・年女役の皆さま(2月3日)



氏子内にオープンした吹きガラス工房 floresta fabrica (左:鈴木努氏)



ロックバンド「和楽器バンド」箏奏者 いぶくろ聖志様 新春のご参拝(右)(1月2日)



神社本庁長老・元衆議院議長・全国バドミントン協会会長 綿貫民輔様
小國神社御庭焼遠州みもろ焼き別所窯の視察(中央)(12月19日)



フィリピン共和国マバラカット西飛行場跡地にて行われた
戦没者慰霊祭に参列する打田宮司(右)(2月5日)

平成二十八年三月二十日
「玉垂」(たまだれ) 第四十六号
題字揮毫 神社本廳元総長 工藤 伊豆
発行 小國神社社務所
郵便番号 四三七〇二二六
住所 静岡県周智郡森町一宮三九五六一
電話番号 〇五三八(八九) 七三〇二
FAX 〇五三八(八九) 七三六七一
印刷 (有)デザインオフィス エムエスシー

平成二十七年四月一日(水)午前十時に柔らかな春の陽射しのもと撮影いたしました。第二鳥居前の枝垂れ桜はご参拝の皆様様の撮影スポットとなっております。

表紙写真について

○新春のご参拝をされた箏奏者のいぶくろ聖志さんが所属する和楽器バンドは、本年一月六日に日本武道館公演を行いました。公演チケットは完売とのことで、その盛況ぶりが伺えます。大神様のご加護を頂かれ益々のご活躍をお祈り申し上げます。 <http://wagakki.band.jp/>

○「玉垂」四十六号をお届けいたします。氏子内に吹きガラス工房 floresta fabrica がオープンいたしました。柔らかな質感と日常使いできるシンプルなデザインが贈答品としても欲ばれそうです。公式ウェブサイトもごさいいますので、こちらも是非ご覧下さい。

編集後記



敬神婦人会による節分豆の袋詰め奉仕(1月25日)